

DICOMO2022論文フォーマット

情報 太郎¹ 処理 花子^{†1}

概要：このパンフレットは、DICOMO2022 に投稿する論文の最終版を、日本語 L^AT_EX を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、論文作成のためのスタイルファイルについて解説している。また、このパンフレット自体も論文と同じ方法で作成されているので、必要に応じてスタイルファイルとともに配布するソース・ファイルを参照されたい。また、本スタイルファイルの元になっているのは、情報処理学会論文誌用のスタイルファイル（<https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html> からアクセス可能）なので、L^AT_EX コマンドの詳細などについては、それらを参照されたい。なお、論文フォーマットについては、上記の原稿執筆案内に記載されたフォーマットではなく、本フォーマットをご利用いただきたい。

DICOMO2022 Paper Format (optional)

TARO JOHO¹ HANAKO SHORI^{†1}

1. 論文フォーマットについて

ページ数の制限は設けない。フルペーパーに相当する論文を基幹論文誌推薦の対象とする。

DICOMO2013 より、和文原稿において英語のアブストラクトは記載しないこととした。DICOMO2014 より、本文の言語と同じ言語の題名と著者名は必須、そうでない言語の題名と著者名はどちらでもよいこととした。DICOMO2016 では、申込み時の概要入力を論文フォーマットに準拠させ、概要からの論文作成がスムーズに行えるようにした。

その他の本論文の体裁については「情報処理学会論文誌 (ジャーナル) 原稿執筆案内」(<https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>) に準拠する [1]。このフォーマットは、上記案内に準拠しつつ、情報処理学会の許諾を得てカスタマイズしたものである。なお、DICOMO2022 向け原稿に関する特記事項として、以下に留意いただきたい。

- 使用するファイルは、
dicomopapers.cls
である。

- documentclass の設定は、
`\documentclass[Japanese,noauthor]{dicomopapers}`
とすること。
 - Japanese オプション: 和文原稿の場合に指定する
 - noauthor オプション: 和文原稿の場合に限り、英文のタイトルと著者名を記載したくない場合に指定する
- biography セクションは、記述しないこと。
- 周りの余白 (ヘッダやフッタ) に、学会名やコピーライト、ページ番号などを記入しないこと。
- 最後のページに著者紹介を記入しないこと。

著者も含めて論文誌作成に関わる全ての人々の労力を軽減するためにも、原稿を作成する前に執筆案内を 良く読んで規定を守っていただきたい。

なお、これらスタイルファイルについて、情報処理学会に問い合わせることはしないこと。 また DICOMO2022 運営委員会としても、基本的にサポートはおこなわないので、悪しからずご了承ください。

参考文献

- [1] 情報処理学会: 情報処理学会論文誌 (IPJS Journal) 原稿執筆案内, 情報処理学会 (オンライン), 入手先 (<https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/ronbun-j-prms.html>) (参照 2022-03-01).

¹ 架空大学
University of Kakuu

^{†1} 現在, 架空株式会社
Presently with Kakuu, Corp